

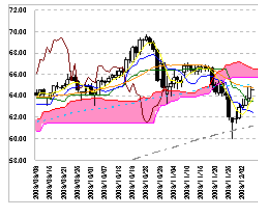
週間と短期中期のポイント

■ドル円短期中期ポイント

上影線引け。一時は89.81円まで上昇するなど上値を伸ばしたものの、心理的節目の90円を前に伸び代と引けにかけては89円近辺まで失速した。転換線が切り上がって推移していること、基準線を上げたことなどサポート材料がないわけではないが、足型からはどうしても上値の重さが拭えない。

安全にいくのであれば、前述した90円付近まで引きつけた上での戻り売り姿勢で観望のがよいだろう。その場合の目標は12月9日に示現した安値の87.36円。もちろん同水準を下抜けることができれば、11月安値の84.82円にむけてさらに売りが加速する可能性が濃厚だ。

レジスタンス② 90.00(心理的節目)
 レジスタンス① 89.81(12/11高値)
 11日終値 89.16



テクニカル分析ツールとして活用されている一目均衡表と移動平均線をベースとした、テクニカル分析記事です。

『週間』では、週足一目均衡表を用いて比較的中期（2～3週間程度）の分析をしています。

『短期中期のポイント』では日足一目均衡表を用いて、週間に比べて短期の分析をしています。

ピボットの見方

ピボット（PIVOT）とは、J・W・ワイルダーによって考案されたオシレーター系のテクニカル分析指標のひとつです。前日の高値、安値、終値を用いて、当日も前日と同程度の値動きになると仮定した場合のサポートとレジスタンス水準を推測する指標です。

短期的な取引における目安となります。

ピボット 計算式

（各式は図中右の各ラインの行に対応しています）

前日高値：H 前日安値：L 前日終値：C

ターニングポイント=ピボット×2-2L+H

レジスタンス2=ピボット-(L-H)

レジスタンス1=ピボット×2-L

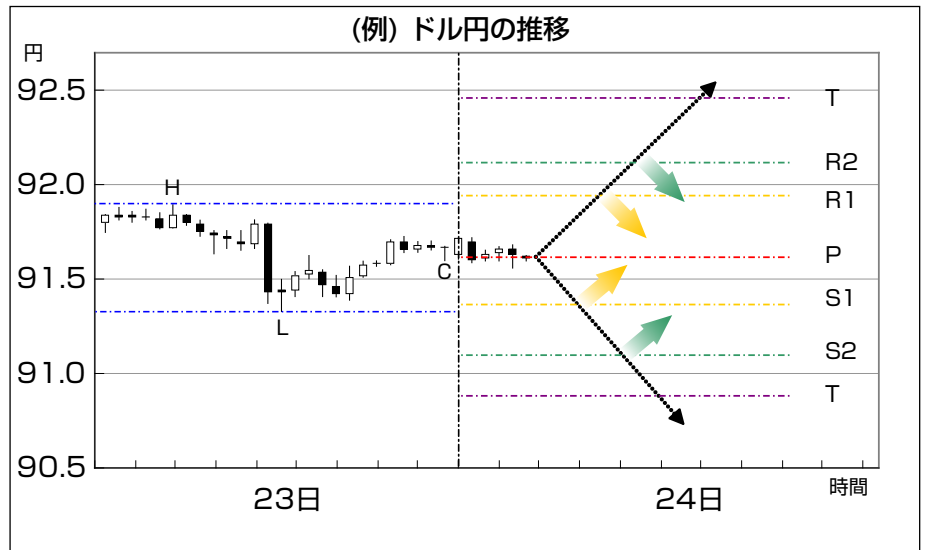
ピボット=(H+L+C)÷3

サポートライン1=ピボット×2-H

サポートライン2=ピボット-(H-L)

ターニングポイント=ピボット×2-2H+L

(例) ドル円の推移



上記7つのポイントが「前回の足」を用いて算出していることから推察できるように、本分析指標が「次回の足」でのみ有効となることに注意が必要です。

ピボット

	USDJPY	EURUSD	EURJPY	GBPJPY	GBPUSD	CHFJPY	CADJPY	AUDJPY	NZDJPY
ターニングポイント	96.79	1.4508	139.76	164.48	1.7112	91.6	90.89	82.53	65.97
レジスタンス②	96.13	1.4471	138.73	163.34	1.7058	90.89	90.31	81.68	65.12
レジスタンス①	95.68	1.4441	138.03	162.33	1.6999	90.37	89.54	81.05	64.63
キー(ピボット)	95.02	1.4404	137	161.19	1.6945	89.66	88.96	80.2	63.78
サポート①	94.57	1.4374	136.3	160.18	1.6886	89.14	88.19	79.57	63.29
サポート②	93.91	1.4337	135.27	159.04	1.6832	88.43	87.61	78.72	62.44
ターニングポイント	93.46	1.4307	134.57	158.03	1.6773	87.91	86.84	78.09	61.95

<一般的なピボットの見方>

ピボットを中心として上下のターニングポイント内で相場が推移している場合は、レンジ相場と捉え、サポート1・2では買い建てし、レジスタンス1・2では売り建てします。買い建てた場合はレジスタンス1・2がポジションを手仕舞いするポイントとなり、逆に、売り建てた場合はサポート1・2がポジションを手仕舞う目安の水準となります。

また、上下それぞれのターニングポイントを下抜けあるいは上抜けしてきた場合は、レンジ替わりしたとして、トレンドに追随して売買します。

さらに、レジスタンスとサポートの幅が狭まってくるとトレンド変化の兆しと捉え、逆にレンジ幅の拡大はボラティリティの高い状態を示します。